

審議事項(2) 地域公共交通再構築調査事業の事業評価について

愛媛県地域公共交通網再編協議会において、令和 7 年度に実施する国庫補助事業（地域公共交通再構築調査事業）の一次評価についてご審議をいただくものです。（県事業名：南予南部共創型交通アクセス向上事業）

愛媛県の南予南部地域において J R 予土線を含む地域の公共交通の利用促進のために、今年度は以下の 3 つの実証事業を実施しました。

① J R 予土線・宇和島自動車路線バス モーダルミックス実証実験

実証期間：令和 7 年 7 月 1 日～令和 8 年 2 月 28 日（予定）

※実証期間中のため、途中経過での一次評価となります。

② J R 予土線 W i - F i 設置実証実験

実証期間：令和 7 年 9 月 1 日～令和 7 年 11 月 30 日

③南予南部地域電動シェアモビリティ導入実証実験

実証期間：令和 7 年 8 月 1 日～令和 7 年 11 月 30 日

➡ 事業評価資料（別添 2）をご確認の上、「書面議決書」の提出により、事業の評価についてご審議ください。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(計画策定等に係る事業)(案)

令和8年1月 日

協議会名:愛媛県地域公共交通網再編協議会

評価対象事業名:地域公共交通再構築調査事業

①事業の結果概要	②事業実施の適切性	③計画策定等に向けた方針
【事業内容】 JR予土線・宇和島自動車路線バス モーダルミックス実証実験 実証期間 令和7年7月1日～令和8年2月28日(予定) 委託先 四国旅客鉄道株式会社 →JR宇和島駅からJR松丸駅間を有効区間とするJRの定期券及び乗車券類で対象となる同区間のバス利用及びバス定期による鉄道利用を可能にする実証実験。 【結果概要】 10月末までの利用内訳は、通学定期利用が約90%、通勤定期利用約5%、その他乗り放題等乗車券類約5%となっている。平日利用が9割近くを占めるが、残り1割が観光利用や学生の部活動等の利用があり、利用者の利便性向上が図られている。 (11月末までの利用実績) ・延べ利用人数: JR定期券でバス利用 1,848人(12.1人/日) バス定期でJR利用 113人(0.7人/日) (10月末までの利用状況) ・最も利用の多かった区間 近永・松丸方面 宇和島→近永 宇和島方面 近永→宇和島 ・バス便別で最も利用が多かった便 近永・松丸方面 宇和島発 16:43の便 宇和島方面 松丸発 18:35の便	A	計画通り事業は適切に実施された。
【事業内容】 JR予土線Wi-Fi設置実証実験 実証期間 令和7年9月1日～令和7年11月30日 委託先 株式会社ジェイアール四国メンテナンス →JR四国と協議した対象車両4818D、4822D(宇和島11:27発→江川崎→宇和島駅着21:49)、8816D(宇和島駅9:34発→窪川→宇和島16:08着)※しまんトロッコ連結日あり、4820D(宇和島13:27→窪川→宇和島20:07着)※海洋堂ホビートレインに、可搬式のWi-Fi機器を設置し、利用状況を把握する。		

【結果概要】 ・JR予土線車両内での電源が確保できなかったため、設置できる可搬式Wi-Fi機器を導入。 ・車両清掃作業を実施するジェイアール四国メンテナンスの作業員に機器の搬出入、充電を依頼し、列車運行に支障のないオペレーションを確認。 ・通学時の学生利用のみならず、観光目的での利用者のニーズが確認された。 利用者数 延べ12,592回 9月実績 総利用者数延べ 3,911(内新規利用者数 381) 10月実績 総利用者数延べ 4,417(内新規利用者数 306) 11月実績 総利用者数延べ 4,264(内新規利用者数 247) ・利用者の84%がWi-Fiを必要と思うと答えた。 ・利用居住地 47%が愛媛県外、40%が予土線沿線地域、11%が沿線以外の県内、2%が国外 ・利用者の乗車目的 観光51%、通学31%、通勤3%	A	計画通り事業は適切に実施された。	今回の実証で収取した利用実績データを踏まえ愛媛県地域公共交通網再編協議会において情報共有を行い、更なる利用促進策の検討や、他地域での施策検討に活かす。 また、沿線市町における実証事業の実装の可否について協議を進める。 その他、JR四国が地域と連携して利用促進事業を進める「5ヵ年推進計画2021～2025」の総括検証及び事業の抜本的な改善方策の検討のために情報提供を行い、引き続き公共交通の維持・活性化のために事業者との協議に活かす。
【実施内容】 南予南部地域電動シェアモビリティサービス導入実証実験 実証期間 令和7年8月1日～11月30日 委託先 株式会社ジェイアール四国企画 →JR宇和島駅、近永駅、松丸駅の周辺及び愛南町バス停等の交通結節点付近に、目的地までの移動手段として電動シェアモビリティの貸出ポートを設置する。導入台数:22台(10月、11月のみ24台) 【結果概要】 利用実績 346回 宇和島駅前132回、シロシタ64回、きさいや広場15回、JR松丸駅前71回、JR近永駅付近ワームス49回、愛南町Umidas15回 ・貸出ポート及び貸出機器の維持・管理する現地運営団体として地域の観光協会や民間企業、NPO法人、行政が連携して運営体制を構築。電動シェアモビリティサービスの導入に対し、オペレーション上の課題を抽出できた。 ・新モビリティ導入による地域の魅力発信につながったが、利用実績が伸びず公共交通利用促進効果は限定的だった。 ・電動シェアモビリティのJR予土線搭載についてJR四国と協議を重ねモニターツアーを実施し、駅施設、車両のバリアフリー状況等、実現可能性について検証を実施。	A	計画通り事業は適切に実施された。	

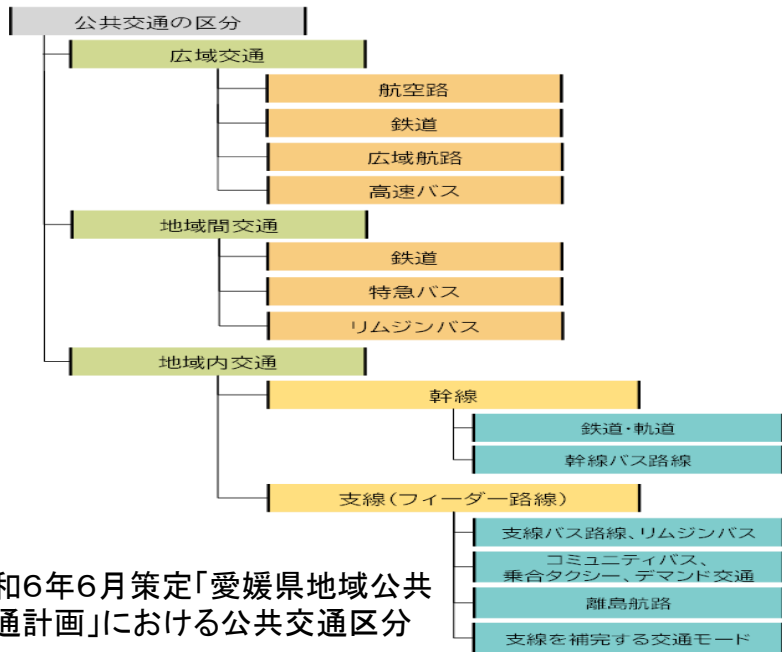
愛媛県地域公共交通網再編協議会

地域公共交通調査事業(計画策定事業)
事業評価(令和7年度)

愛媛県地域公共交通網再編協議会の基礎データ

地域公共交通の活性化及び再生に関する法律第5条第1項の規定に基づく愛媛県地域公共交通網形成計画の作成に関する事項を協議するため、平成29年5月に設置。愛媛県地域公共交通計画、再編計画及び同計画に位置付けた事業の実施に係る連絡調整等を任務とする。

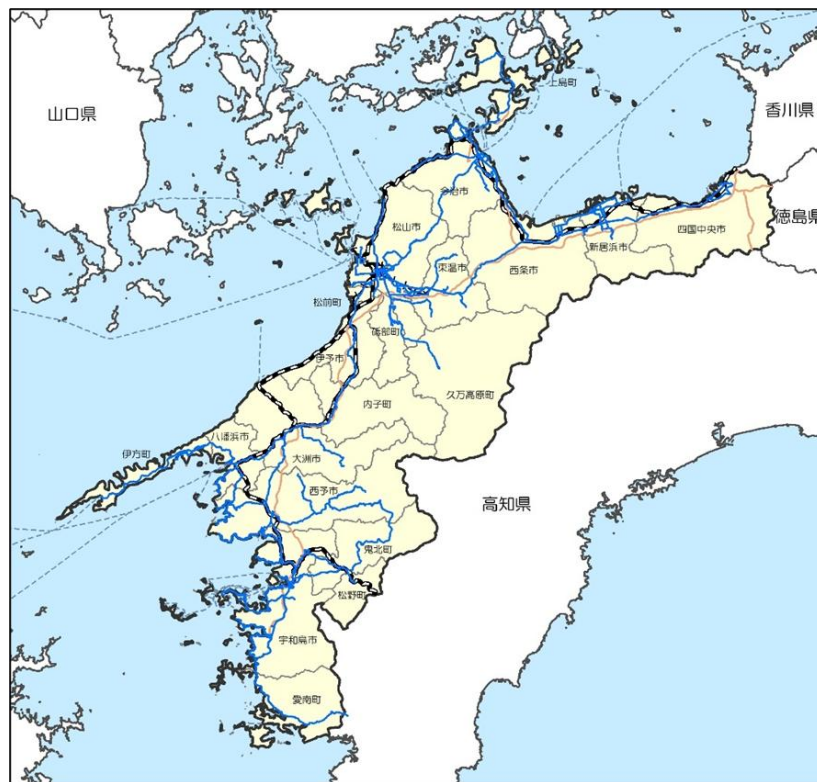
愛媛県における主な公共交通概要



協議会の構成員

愛媛県、県内20市町、交通事業者(鉄道、バス、航路)、県ハイヤー・タクシー協会、松山・大洲河川国道事務所、愛媛県警察本部、学識経験者、愛媛運輸支局 等

愛媛県の公共交通ネットワーク図



東予地域	今治市、新居浜市、西条市、四国中央市、上島町
中予地域	松山市、伊予市、東温市、久万高原町、松前町、砥部町
南予地域	宇和島市、八幡浜市、大洲市、西予市、内子町、伊方町、松野町、鬼北町、愛南町

人口: 1,334,841人(令和2年)

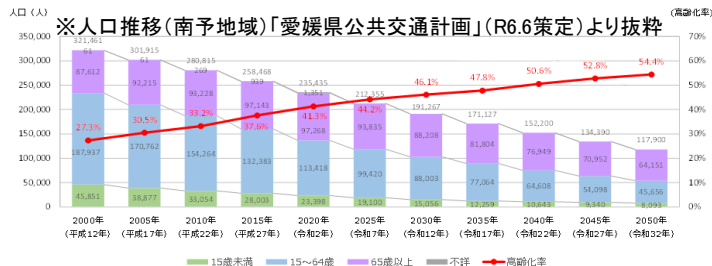
東予: 461,664人 中予: 637,742人 南予: 235,435人

面積: 約5,676平方キロメートル

東予: 約1,600km² 中予: 約1,500km² 南予: 約2,500km²

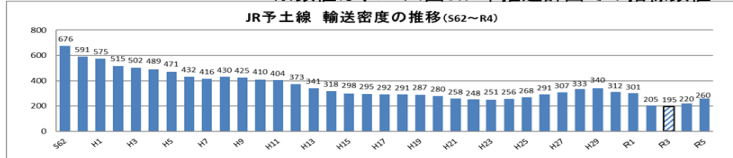
具体的な課題・問題点、事業の目的・必要性

予土線沿線を含む南予南部地域については、県内の他の地域に先んじて人口減少が進んでおり、高齢者人口は増加、高齢化率は2040年(令和22年)に50%を超える見込み。



地域の幹線鉄道であるJR予土線は、平均通過人員が1,000人/日未満の路線であり(R6年度 250人/日※)JR四国と地域で連携し、重点的に利用促進に取り組む路線である。

(単位:人/日) ※数値は、JR四国5か年推進計画での指標数値



⇒約30年前と比較すると、
利用者が3～4割に減少している

住民、観光者とも、自家用車による移動が主である現状であり、地域の公共交通の維持・活性化のためには、利用者目線のニーズ把握と多様な主体(交通事業者、地域行政、医療機関や教育機関等)の連携による公共交通の利用促進・利便性向上が必要である。

※「R6愛媛県南予南部地域公共交通ニーズ調査」より「南予南部地域18歳以上の住民、非日常を含めて年1回以上のJR予土線、路線バスの利用状況」



※観光客の利用交通機関(愛媛県)「愛媛県公共交通計画」(R6.6策定)数値抜粋



調査事業の概要

1 南予南部交通アクセス向上検討会の開催

国関係機関や関係市町、交通事業者だけでなく、医療機関や教育機関、福祉団体等も参画する検討会を開催し、利用者目線で地域公共交通のアクセス向上検討。

2 幹線公共交通の利便性向上、利用促進に係る実証実験の実施

(1) JR予土線及び路線バスの利便性向上実証実験

【モータルミックス実証実験】令和7年7月1日～令和8年2月28日

宇和島駅～松丸駅間を有効区間とするJR及び路線バスの乗車券類で、鉄道及びバスの相互利用を可能とし、R6年度の実証実験を拡充して実施する。

【Wi-Fi実証実験】令和7年9月1日～令和7年11月30日

JR予土線の車内にWi-Fi環境を整え、乗客の利用率やアンケートにより利便性向上度を検証する。

(2) 電動シェアモビリティサービス導入予土線混乗実証実験

令和7年8月1日～令和7年11月30日

南予南部の4市町(宇和島市、松野町、鬼北町、愛南町)の鉄道やバスの交通結節点等に、電動キックボード等のシェアモビリティサービスの貸出ポートを設置し、予土線への混乗可能とすることで公共交通から観光地等までの二次交通を補完する実証実験を行う。

協議会における検討状況

- 令和6年11月29日 愛媛県地域公共交通網再編協議会の部会として、「南予南部交通アクセス向上検討会」を立ち上げ
- 令和7年3月25日 令和6年度第1回南予南部交通アクセス向上検討会
・令和7年度実施事業、多様な関係者の参画等について説明
- 令和7年6月24日 令和7年度第1回愛媛県地域公共交通網再編協議会
・令和7年度実施事業を再編協議会において承認
- 令和7年7月28日 令和7年度第1回南予南部交通アクセス向上検討会
・多様な分野の構成員を含め、地域の交通ニーズについて検討
- 令和7年10月16日 令和7年度第2回南予南部交通アクセス向上検討会
・R6年度実施事業実施状況の確認とR7年度事業についての意見交換

自己評価

実証事業: JR予土線・宇和島自動車路線バス モーダルミックス実証実験

事業実施の適切性

- ・令和7年6月25日に四国旅客鉄道株式会社と委託契約締結の上、令和7年7月1日から実証実験開始。
- ・月毎に利用実績を確認。11月末時点での利用者数総計、利用状況を確認。
JR定期でバス利用者(11月末時点) 延べ利用人数1,848人 日数153日 利用平均12.1人/日
- 7月実績 JR定期でバス利用者272(通学定期243、通勤定期19、その他10) バス定期でJR利用者14
- 8月実績 JR定期でバス利用者312(通学定期274、通勤定期24、その他14) バス定期でJR利用者5
- 9月実績 JR定期でバス利用者424(通学定期381、通勤定期27、その他16) バス定期でJR利用者22
- 10月実績 JR定期でバス利用者460(通学定期437、通勤定期11、その他12) バス定期でJR利用者33
- 11月実績 JR定期でバス利用者380(通学定期359、通勤定期4、その他17) バス定期でJR利用者39
- ・以上から、地域公共交通再構築調査事業について、概ね適切に実施。

調査結果を受けた計画策定の方針、今後への反映

- ・JR四国「5か年推進計画2021～2025」総括検証の内容にJR予土線の地域との連携施策の例として反映。JR四国において実証事業結果を他県勉強会等でも活用。
- ・令和7年10月16日開催の令和7年度第2回南予南部交通アクセス向上検討会において、事業実施経過報告の上、構成員と事業継続について意見交換。
- ・行政、事業者を含めた地域の関係者で事業継続について検討中。

今後のスケジュール

- ・令和7年12月 沿線高校生への事業アンケート協力依頼
- ・令和8年1月末 沿線高校生への事業アンケート締め切り、集計、とりまとめ予定
- ・令和8年1月中 次年度以降のモーダルミックス事業について事務担当者協議
- ・令和8年2月末 事業実施終了、事業報告(委託事業者)、精算
- ・令和8年3月中 南予南部交通アクセス向上検討会において、事業結果報告
- ・令和8年3月中 愛媛県地域公共交通網再編協議会において事業結果報告

自己評価

実証事業: JR予土線Wi-Fi設置実証実験

事業実施の適切性

- ・電源使用不可であるJR予土線列車内に設置可能な可搬式Wi-Fi機器の導入を検討。
- ・JR四国と運用上設置可能な車両を限定の上、列車到着後の車両整備時にあわせてWi-Fi機器の設置とすることを検討。
- ・令和7年7月7日にジェイアール四国メンテナンス株式会社と委託契約締結の上、令和7年9月1日から実証実験開始。
- ・月毎に利用実績を確認。11月末時点での利用者数総計、利用状況を確認。
 - 9月実績 総利用者数延べ 3,911(内新規利用者数 381)
 - 10月実績 総利用者数延べ 4,417(内新規利用者数 306)
 - 11月実績 総利用者数延べ 4,264(内新規利用者数 247)
- ・以上から、地域公共交通再構築調査事業について、概ね適切に実施。

調査結果を受けた計画策定の方針、今後への反映

- ・JR四国「5か年推進計画2021～2025」総括検証の内容にJR予土線の地域との連携施策の例として反映。
- ・令和7年10月16日開催の令和7年度第2回南予南部交通アクセス向上検討会において、事業実施経過報告。
- ・事業者へ調査結果を伝え、今後の利用促進策として検討を続ける。

今後のスケジュール

- ・令和7年12月 沿線高校学生への事業アンケート協力依頼
- ・令和8年1月末 沿線高校学生への事業アンケート締め切り、集計、とりまとめ予定
- ・令和8年3月中 南予南部交通アクセス向上検討会において、事業結果報告
- ・令和8年3月中 愛媛県地域公共交通網再編協議会において事業結果報告

自己評価

実証事業: 南予南部地域電動シェアモビリティサービス導入実証実験

事業実施の適切性

- ・令和7年6月30日にジェイアール四国企画株式会社と委託契約締結の上、令和7年8月1日から実証実験開始。
- ・貸出ポート及び貸出機器の維持・管理先として現地運営団体として宇和島市では、株式会社トヨタレンタリース西四国と宇和島市観光物産協会、松野町ではNPO法人もりのくにネット、鬼北町では鬼北町企画振興課、愛南町では観光協会umidasと委託先で事業協定を締結し、電動シェアモビリティサービスの貸出体制構築。
- 8月実績 22台導入、利用回数104回(JR宇和島駅25回、宇和島市観光協会20回、松野町30回、鬼北町23回、愛南町6回)
- 9月実績 22台導入、利用回数 89回(JR宇和島駅49回、宇和島市観光協会17回、松野町14回、鬼北町4回、愛南町5回)
- 10月実績 24台導入 利用回数 75回(JR宇和島駅30回、宇和島市観光協会16回、きさいや広場5回、松野町14回、鬼北町8回、愛南町2回)
- 11月実績 24台導入 利用回数 78回(JR宇和島駅28回、宇和島市観光協会11回、きさいや広場10回、松野町13回、鬼北町14回、愛南町2回)
- ・以上のことから、地域公共交通再構築調査事業について、概ね適切に実施。

調査結果を受けた計画策定の方針、今後への反映

- ・JR四国「5か年推進計画2021～2025」総括検証の内容にJR予土線の地域との連携施策の例として反映。
- ・令和7年10月16日開催の令和7年度第2回南予南部交通アクセス向上検討会において、事業実施経過報告。
- ・沿線市町や事業者、地域の多様な関係者と組織するアクセス検討会や県地域公共交通網再編協議会での調査結果報告を行い、今後の利用促進策として検討を続ける。

今後のスケジュール

- ・令和7年12月 利用者へのアンケート協力依頼
- ・令和8年1月末 利用者へのアンケート集計、利用実績データのとりまとめ予定(委託事業者からの事業報告)、精算
- ・令和8年3月中 南予南部交通アクセス向上検討会において、事業結果報告
- ・令和8年3月中 愛媛県地域公共交通網再編協議会において事業結果報告